

THE WEEKLY NEWS OF EAST KISARAZU



国際ロータリー第 2790 地区
木更津東ロータリークラブ
2018-19 年度

●例会日 毎週水曜日 PM12:30~1:30 ●例会場 オークラアカデミアパークホテル TEL 0438-52-0111
●事務局 木更津市東中央 3-5-2 第2 三幸ビル 101 TEL 0438-25-0716 FAX 0438-25-0718

2018-19 年度国際ロータリーテーマ インスピレーションになろう BE THE INSPIRATION

第 35 回 例会 NO. 2447 2019 年 4 月 3 日 (水)

ナポリ歴史地区



1995 年登録 世界遺産

■司会進行 浅野文夫 SAA



- ◆点鐘 渡邊元貴会長
1 2 時 3 0 分
- ◆国歌斉唱「君が代」
R ソング「奉仕の理想」
- ◆出席 会員 49 名
出席 35 名・欠席 14 名
- ◆出席率 76.08 %

◆メイクアップ【敬称略】

- ・4/3 定例理事会
加藤智生・渡邊愼司・松岡邦佳
藤永範行・林孝二郎・堀内正人
渡邊元貴・大里光夫・石渡雄悟

◆誕生日【敬称略】

- ・3/31 大隅義一 ・3/31 大森裕資

お誕生日
おめでとう!

◆前々回出席率 77.08 % 修正後出席率 81.25%

◆欠席者【敬称略】

石渡正明・齊藤新一・嶋津正和・林田謙志
三沢 猛・大澤藤満・豊田文智・叶川博章
鶴岡大治・藤野宏治・吉田和義



ホームページ <http://ki-east-rotary.ala9.jp>

木更津東ロータリークラブ

会 長 渡 邊 元 貴
幹 事 大 里 光 夫
編 集 勝 呂 泰 樹

国際ロータリー

RI 会 長 バ リー・ラ シ ン
地区ガバナー 橋 岡 久 太 郎
ガバナー補佐 吉 野 和 弘

■会長挨拶・報告



渡邊元貴会長

最近の学生さんや若い人たち履歴書を見ていると、自分の生年月日や学歴職歴を西暦で記載する人が増えているということに気づきます。悪いとは申しませんが、日本人ならば西暦を使わずに元号表記をしてもらいたいと個人的には思います。

さて、元号については、大日本帝国憲法の日本では皇室典範に定められており、一世一元制になったのは明治になってからです。それまでは、何か大きな災害があったり、疫病が流行ると元号はたびたび改元されてきました。江戸時代の終わり、孝明天皇の御代では6回改元されています。戦後、旧皇室典範が廃止され、昭和22年に新たな皇室典範が定められましたが、元号についての規定はその中にはないのだそうです。

元号については法的根拠がないまま、慣習として私たちの生活に根付いていましたが、元号は不合理だとか、科学的根拠がないという理由から元号廃止についての議論がなされました。現在の元号法制が成立したのは大平正芳内閣の昭和54年のことだそうです。ちなみに、とても短い法律ということで知られているのだそうです。

【元号法】

第1項：元号は、政令で定める。

第2項：元号は、皇位の継承があった場合に限り改める。

新元号に反対する署名が6000人以上集まったという報道もありますが、もし、こうした法的根拠がないまま放置されていたら元号は今頃どうなっていたのでしょうか。万葉集から採用された新元号の令和というありがたい二文字ですが、万葉集は皇族、貴族、防人、農民、遊女、ほかい人(乞食)または読み人知らずのありとあらゆる人たちの和歌が収められている日本の古典。身分にかかわりなくどのような立場であっても、優れた和歌を詠んだ人であれば、この万葉集に選ばれ収められているのです。このことだけを考えても日本人には、「人は皆平等であり」「互いに理解しあえる民族なのだ」という「和」のDNAが流れているということに誇りを持てるのではないのでしょうか。

あの山中伸弥教授が有識者の「新元号に関する懇談会」に出席されたことをニュースでみましたが、世界で活躍される山中教授なので西暦を使うことに慣れていると思います。山中教授は一体どのようなお考えを述べられたのかとても興味があります。

歴史的に例がない日本の古典万葉集から生まれたことをモチベーションとして、日本の若者にはぜひとも新元号「令和」に誇りと親しみを感じてもらいたいものです。

■幹事報告

大里光夫幹事

1. 幹事報告



1) 本日、例会終了後第10回定例理事会が開催されますので、理事の方の出席をお願いいたします。

2. 他クラブからのお知らせ

1) 木更津 RC より「週報」が届いておりますのでお読みください。

3. その他のお知らせ

- 1) 米山梅吉記念館より「館報」が届いておりますのでお読みください。
- 2) 木更津市交通安全協議会より「2019年春の全国交通安全運動の実施について」が届いておりますのでお読みください。

■委員会報告

◇ロータリーの友 4月号

雑誌担当副委員長 山中 恵会員



「4月は、母子の健康月間です」

I、縦組み

1、「9P～12P」 クラブを訪ねて： 船橋西ロータリークラブ
中核市として人口日本一の町に花咲くロータリーの奉仕活動

船橋市はかつて徳川幕府の軍馬の放牧地があり、狩猟に訪れた家康が休息した御殿後には、小さな東照宮が祀られている。船橋市の人口約63万は全国に54市指定されている中核市の中で第一位、しかも依然として人口が増加している。(中核市とは：人口20万以上の市が指定を受けられる。)

【奉仕活動取組紹介】

(1) 車いす寄贈や障がい者スポーツ大会で地域の人達に暖かい支援 P9

① 昨年のクラブ創立50周年記念事業の一つとして船橋市立医療センターに車いす10台を寄贈。今年も寄贈予定。

② 障がいのある人たちのソフトボール大会「船橋パラリンソフトボール大会」開催。

(2) 中学生に職業を語り、市民の困りごと、悩み事を聴く P10

① 会員たちによる出前講座実施：市立船橋中学校会員が講師になって、自分の職業はどんな仕事なのか、なぜその職業に就いたのか、働く中での喜びやつらさ、職業観などを語る。

② 「ふなばし市民祭り」で、会員たちによる無料相談会実施。会員の専門的な職業経験を活かし、年金や医療、介護、人権など市民のさまざまな困り事や悩み事を聴く。

2、卓話の泉 P18～19【記事掲載は省略】

◇ゴルフ愛好会

坂井健治会員

・4/24 渡邊会長杯・5/10 第5グループ親睦ゴルフ

・5/19 坂出東 RC 親睦ゴルフの再度のご案内がありました。

◇ニコニコボックス

クラブ管理運営委員会

宮寺順子会員



・小林裕治・千晃会員

本日の卓話は、世界6大補聴器メーカーの一つであり、全米No1補聴器メーカーの「スターキー補聴器」の方々にお越し頂き、難聴や補聴器、そして奉仕活動について卓話をして頂きます。興味深いお話になると思います。皆様宜しくお願い致します。

・大隅義一会員

平成最後の3月31日83歳になりました。うれしくもあり、うれしくもなし。

・大森裕資会員

後期高齢者の仲間入りした75歳の大森です。今しばらくロータリーの仲間としてお付き合いお願い申し上げます。

・浅野文夫会員

3月26日ようやくおじいちゃんになりました。母子ともに健やかで5月18日金刀比羅宮でお宮参りです。坂出東クラブの50周年と一緒に祝います。

・加藤智生会員

3/26-27日でおこなわれたゴルフのステップアップツアーで、うちのゴルフ場(烏山城CC)所属の吉川桃プロが優勝しました。初優勝です。これからの活躍を見守って下さい。

・藤永範行会員

先週は職場訪問で(株)ワタナベメディアまでご来社頂きありがとうございました。社員の気合がすごくて良い刺激になりました。

・栗坂禎一会員

4月1日をもって日本製鉄に会社名が変わりました。約30年ぶりの全国CMも含めて、早く会社名を覚えてもらうよう広報活動展開中です。日本製鉄かずさマジックもいよいよ明日から四国丸亀で公式戦開始。早々に秋の日本選手権出場を決めるべく頑張ります。(今日のネクタイは満開の桜色です)

■例会アワー

クラブ管理委員会プログラム
クラブ管理委員会

近藤直弘会員
小林千晃会員



本日は、卓話担当の小林裕治・千晃会員のご紹介で、スターキージャパン(株)講師 高橋健斗様、補助講師 西川愛理様・小林洋介様に「補聴器」のお話をさせていただきます。

テーマ

歴代アメリカ大統領ご愛用の補聴器
「難聴と補聴器」

卓話者 高橋健斗様・西川愛理様



【スターキージャパン(株)】



本日は皆様の人生をより健康で豊かにするために、「きこえ」の健康が心や身体の健康だけでなく、生活の質の向上に繋がるというご案内

内と、スターキー社のご紹介をさせていただきます。

■難聴と健康(パンフレット:難聴×健康ポケットガイド参照)

実態調査の進んでいるアメリカにおける難聴についての報告によると、60歳以上の3人に1人が難聴と言われてい



ベビーブーム世代と言われる50代~60代の6人に1人が難聴と言われています。また、ジェネレーションX世代と呼ばれる30代後半~50歳未満の14人に1人はすでに難聴であることを自覚しており、10代の若者の5人に1人が何らかの難聴であることが報告されています。アメリカの高齢者にとって「難聴」は、関節痛、高血圧に次いで3番目に一般的な慢性疾患とされており、「難聴」を患う90~95%の人々は補聴器で治療も可能とされているようです。

難聴の原因としては、大きく分けて4つあります。加齢による難聴、騒音による難聴、遺伝的要因による難聴、薬物による難聴で、様々な要因が組み合わさって難聴を引き起こしてはいるながらも、多くの方が何の対処もせずに過ごされているのが現状です。

(ちなみに難聴を引き起こす危険因子として言われているのが、「喫煙」「糖尿病」「循環器系疾患」「高血圧」「骨粗しょう症」などがあります。)

では、難聴になるとどんな生活への影響があるのか? 難聴者は健聴者に比べ30~40%の思考能力の著しい低下を実感しているそうです。また、難聴の高齢者は健聴の高齢者と比べて認知症を発症するリスクが高くなる傾向が報告されています。(軽度難聴の場合2倍、中等度難聴の場合3倍、重度難聴の場合5倍)さらに認知機能の低下は、コミュニケーション能力の低下だけではなく、転倒などの事故への注意力も低下させます。軽度の難聴者(25dBHL程度)で転倒リスクは3倍も高くなると言われており、ある研究調査では、難聴の程度が10デシベル増すごとに転倒リスク×1.4倍アップするとの報告もあります。その他にも、難聴は社会的孤立を招き家族や友人との関わり方に影響を及ぼしたり、更には年収にも14,100ドルの収入差がある報告されています。

難聴は自分ではなかなか気づかなかつたり、難聴を認めたくなかつたりすることがおおくあります。実は家族や友人などの身近な人が最初に気づく傾向にあります。専門家に相談する際は、家族や友人にも同行してもらうことをお勧めします。

■スターキーのご紹介



全世界で流通する補聴器は現在約1000万台とも言われており、その3分の1がアメリカ国内で販売されているという事実をご存知でしょうか。第三者機関の調査報告によると、第1位がアメリカ365万台、ちなみに第4位が日本56万台でした。(2016年調べ)

スターキーはこの世界最大の補聴器市場アメリカに本社を置く補聴器専門メーカーです。

実はスターキーの補聴器は歴代アメリカ大統領達にご愛用されていることでも広く知られており、特に第40代大統領のレーガン大統領は在職中に耳あな型補聴器を使用していることを公言し、多くのメディアで報道されたことがきっかけで爆発的な急成長を遂げた補聴器メーカーです。創設者のウィリアム・F・オーステイン(通称:ビル)は、アメリカで1967年に補聴器の

修理専門会社として創業をスタートし、今や補聴器業界では基本サービスとなっている耳あな型補聴器の紛失保証や形状再作保証などのサービスの制度化や、超小型オーダーメイド耳あな型補聴器（IICやCIC）を開発してきた先駆者的な方です。現在でも耳あな型オーダーメイド補聴器の製造販売台数は全世界 No.1 となっております。

■スターキー補聴器について

スターキーは補聴器の心臓部であるチップの開発をすべて自社で行っている世界6大メーカーの1つで、特にハウリングキャンセル能力が極めて強力であるため、深刻な難聴を抱えるお客様でも安心してお使いいただける補聴器として選ばれております。また、最近では会話強調機能の強化だけでなく、補聴器でもBGMを含む音楽の音質を楽しむことができる補聴器が好評となっております。（詳しくは販売店までお問い合わせください）

■社会貢献活動 Hearing Foundation (きこえの財団) について

現在、全世界で3,200万人の子供を含む3億6,000万人もの人々が難聴を患っています。



発展途上国では、補聴器を必要とする40人のうち1人しか補聴器を所有できていません。

1973年にスターキーの創業者ビル・オースティンは、「一人でできることは限られている。しかし、力を合わせれば、世界を変えることもできる」と信じ、「世界のきこえのために」Starkey Hearing Foundation = 「スターキーきこえの財団」を設立しました。本財団は、スターキー補聴器の販売による収益の一部や寄付金を資金源としており、米国各界（歴代大統領やスポーツ界、エンターテインメント業界）の著名人や「きこえ」の専門家も数多くボランティアに参加いただき毎年10万台以上の補聴器を寄贈しています。

きこえの財団が提供する補聴器は、メーカーやモデル、使用年数、故障の有無に関係なく世界中から寄付された補聴器を新しい補聴器としてリサイクルされたものを使用しています。（56万個以上の補聴器をリサイクル）

■地域密着型聴覚ヘルスケアプログラム

補聴器は1回調整したら終わりなのではなく、使い続けていくためのアフターケアが必要になります。そこで、きこえの財団はフェーズ1からフェーズ4までの4段階に分けて、世界中の現地政府、病院、学校などと密着して聴覚ケアを行うシステムを採用しています。

- フェーズ1：補聴器装着候補者の選定（聴力測定、耳型採取）
- フェーズ2：補聴器の調整（毎年20万個以上の補聴器の調整対応を行っています）
- フェーズ3：アフターケア（補聴器の再調整・清掃点検、ちゃんと使えてるか？を確認）
- フェーズ4：実生活で活かす（補聴器を装着して初めて音を聞いた人たちが大勢おり、補聴器から聞こえてくる「音」を「言葉」として覚える訓練を行います）



フェーズ3とフェーズ4は、今後ずっと続けられていく活動になります。定常的に臨機応変に対応するためには「現地で補聴器の調整が出来る人材」が必要となります。そのため、アメリカからオーロロジストと呼ばれる補聴器のスペシャリストや言葉のスペシャリストであるスピーチセラピストを現地に派遣し、何か月にもわたって現地の病院の先生やろう学校の先生を教育トレーニングする活動も並行して行っています。

フェーズ2がメディアで取り上げられることが多いのですが、ビルの考えに共感したクリントン大統領やブッシュ元大統領、イギリスのブレア元首相のほか、ハリウッド映画スターのジョニー・デップなども参加しています。また、彼らのようにフェーズ2に直接参加できない著名なスポーツ選手や芸能人の方々からは、財団主催のオークションでの資金集めのGalaパーティーのために財団に私物を寄付していただく形での協賛が多いです。



ビルは1人でも多くのプロフェッショナルを育てたい！という思いから2016年6月アフリカのザンビアにStarkey Hearing Institute（スターキーきこえの学校）を設立しました。（第1期生は2017年12月に卒業）ビル・オースティンのこれまでの活動が国際連合の目に留まり、ニューヨークにある国連本部で国連認証された機関、国際平和と持続可能な発展に関する国際連盟（IFPSD）によって、耳と聴覚の健康のための初めての国際親善大使に任命されました。（2017年9月）



■最後に

スターキーきこえの財団は、現在1,000以上のパートナーやスポンサーが、きこえの財団の活動にご協力いただいております。この10年で100万台以上の補聴器を発展途上国の聴覚障害者に届けてきました。しかし、3億6,000万人という補聴器を必要としている人たちの数にはまだまだ及びません。スターキージャパン株式会社では、補聴器販売による協力だけではなく、日本で使われなくなった補聴器や壊れてしまった補聴器などを集め、きこえの財団宛（米本社）の日本のサポート窓口的な業務も行っております。もし、お手元にご不要な補聴器がございましたら、世界中への「きこえ」の贈り物として、ぜひスターキーの活動にご協力ください。



大変興味深い卓話ありがとうございました！

点鐘 渡邊元貴会長 13:30